室町時代の政治・経済・社会・宗教に関する一級史料！

大和の情勢・京都中央政界の動向等を詳細に記した
摂関家出身の奈良興福寺別当、経覚の日記を翻刻！

史料纂集古記録編

第 197 回配本

経覚私要鈔（きょうがくしようしょう） 第10

小泉宜右（よしあき） 校訂

2018 年 6 月 5 日刊行　別記・解題　　本文完結

● A5 判・上製・264 頁・定価（本体 13,000 円＋税）ISBN978-4-8406-5197-4

奈良興福寺大乗院別当第 18 世門主経覚（1395 ～ 1473）の日記。『私要鈔』の名は、原本の表紙に題せられたところである。原本は、独立行政法人国立公文書館に所蔵され、欠年もあるが、応永 22 年（1415）から文明 4 年（1472）までが現存。

その内容は、興福寺内の寺務・寺領支配から国人の動向、大和の情勢、京都の動静にまでおよび、朝幕関係から幕府内部の動向も書かれている。嘉吉の乱から応仁・文明の乱勃発の時期までの政治・社会・経済史研究の一級史料である。

経覚は、興福寺の実力者として、その職掌は寺内の法務から寺領の経営にまで多岐におよぶ。大和国内の興福寺の力関係から、同国内の支配、豪族や国人層との対応対立なども克明に記録する。

この時期の史料としては、『大乗院寺社雑事記』とならぶ基本史料といえる。経覚は、本拠地の奈良から、常に京都の情勢を見据え、絶えず関心をはらっている。これには、彼の摂関家出身という貴族の出自が大きく影響している。

●第 11 は、正誤表・経覚事歴年譜の予定です。

経覚（きょうがく）とは

応永 2 年（1395）、関白九条経教の子として誕生。同 14 年に出家し、同 17 年に大乗院門跡となる。同 33 年に興福寺別当となり、永享 3 年（1431）・寛正 2 年（1461）・文明元年（1469）の都合 4 度別当に補任されている。この間、 幕府の命に抗して隠居したこともあるが、幕府要人とは良好な関係を結び、将軍足利義教、管領畠山持国、三宝院満済などの交誼を得ている。経覚は、大乗院門跡・興福寺別当という興福寺の実力者として、大和国内にも影響力をもった。文明 5 年（1473）、79 歳で寂す。

経覚私要鈔 既刊 ※定価は本体

① 応永 22 年（1415）～文安 5 年（1448）　定価 4,800 円　② 文安 6 年（1449）～宝徳 3 年（1451）　【OD 版】
③ 宝徳 4 年（1452）～長禄元年（1457）　定価 6,600 円　④ 長禄 2 年（1458）～長禄 4 年（1460）定価 6,600 円
⑤ 寛正 2 年（1461）～寛正 3 年（1462）　【OD 版】　⑥ 寛正 3 年（1462）～寛正 5 年（1464）　【OD 版】
⑦ 寛正 6 年（1465）～応仁 2 年（1468）　定価 13,000 円　⑧ 応仁 3 年（1469）～文明 3 年（1471）定価 13,000 円
⑨ 文明 3 年（1471）～文明 4 年（1471）・別記　定価 13,000 円